



第2節 優れた環境人財の育成

本市では、「まちづくりは人づくり」とし、市民は最も重要な財産であると考え、「人財」育成の取組をすすめてきました。とりわけ、環境問題を解決していくためには、一人ひとりが環境との関わりについて理解し、具体的な行動に結びつけることが重要であることから、環境教育・環境学習の必要性はますます高くなっています。そのため、学校、家庭、地域などの様々な機会、場での環境教育・環境学習の更なる充実を図り、子どもから高齢者まであらゆる世代の環境人財が育成されるとともに、本市にある教育・研究機関等の施設群を活用し専門的かつ実践的な知見を身に付け、国内外で活躍するような人財を育成します。

1. 北九州環境みらい学習システムの推進

(1) 目的

本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等と結びつけ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、まち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行い、「環境未来都市」推進の原動力となる「市民環境力」の向上を目指します。



システム全体像

(2) これまでの取組

ア. 検討会の開催

平成22年度に有識者・地元関係者からなる「低炭素社会総合学習システム検討会」を立ち上げ、今後のシステム構築に向けての指針となる意見のとりまとめを行いました。

イ. 人材育成

バスガイドをはじめとした観光関係者や環境関係ボランティアなど身近な場所で活躍している人材18名に対し、「ツアー企画・運営等にかかる座学及び実地研修を行いました。

ウ. 環境学習（エコ）ツアーの実施

本市の環境について気軽に楽しく学べるよう、市内の環境スポットを周遊するエコツアーをモデル的に実施し

た。また、地域団体向けのエコツアーも企画・実施しました。

- ・一般市民向けツアー 3コース・計 72名参加
- ・女性向けツアー 3コース・計 57名参加
- ・親子向けツアー 1コース・計 20名参加
- ・地域団体向けツアー 7コース・計 2,600名参加



モデルツアー実施の様相

エ. 情報発信

環境情報の発信拠点として、集客性の高い小倉駅の3階にある「総合観光案内所」内に、本市の環境施策や環境関連施設を紹介するパンフレットなどを取り揃えた「環境情報コーナー」を設置するとともに、研修を受講した案内人を窓口配置しました。

併せて、「環境みらい学習システムホームページ（<http://www.eco-learning.jp/>）」を開設し、環境関連施設情報や最新のイベント等の情報を広く、分かりやすく発信しています。



環境情報コーナー



ホームページ

(3) 今後の取組

今後は、環境関連情報の入手や交通手配、宿泊手配等ツアーにかかる予約などをワンストップで可能とする総合窓口の開設やシステムを支える人材育成のための「(仮

称) 環境リーダーみらい塾」の創設に向けた検討を行います。

また、視察受入企業や宿泊施設、飲食店、物産店等民間事業者などと連携を図り、環境学習分野での新たなビジネスモデルが展開できるような仕組みを構築していきます。

2. 環境ミュージアムを拠点とした環境学習の推進

環境学習・活動交流の総合拠点である「北九州市環境ミュージアム」では、北九州市の公害克服の歴史やさまざまな地球環境問題、それを防止するための取組などを展示しており、これらをガイドが詳しく紹介しています。市民ボランティアである環境学習サポーターによる工作・実験・クイズなどの体験型プログラムも提供しています。また「感じて」「学べる」21世紀環境共生型モデル住宅「北九州エコハウス」も平成22年4月に併設し、環境に優しい住まいづくりの情報発信も行っています。

館内には情報ライブラリを設置し、書籍やビデオなどを揃え、パネルや実験機器などとともに貸出も行っており、学校の授業など各種の環境教育に活用されています。

平成14年4月に開設して10年を迎えるに当たり、平成23年度に展示内容を一部改修しました。また、平成24年4月から見学料が無料になりました。

平成23年度の利用者数は、104,973人でした。

(環境ミュージアム HP アドレス <http://eco-museum.com/>)



環境ミュージアム

3. 北九州子どもエコクラブ活動の推進

「子どもエコクラブ」とは、子どもたちが自主的に環境に関する学習や活動を行うクラブです。平成23年度は、環境活動に関する教材や情報の提供、交流と学習を兼ねた宿泊交流会や、1年間の活動をふり返って、壁新聞にまとめる「壁新聞教室」を実施しました。

平成23年度は、36クラブ、2,188名の幼児から高校生までが活動し、市内の多くの子どもたちの自主的な環境

活動が促進されました。



平成23年度夏の交流会の様子

4. 環境教育副読本による環境学習の推進

幼児から中学生までそれぞれの発達段階に応じた環境教育副読本を平成12年度から作成し、平成14年度に幼児用、小学校低学年・中学年・高学年用及び中学生用の5段階シリーズ化が完成しました。平成15年度は、小学生用副読本の教師用指導書3種類と、幼児用の大型環境絵本を作成、平成16年度は、幼児用絵本の点字本と音声CDセットを作成し、さらに小学校低学年用副読本を大きく改訂しました。

平成17年度は、小学校高学年用の別冊資料として、環境学習サポーターが語り継ぐ公害克服の体験紙芝居「青い空を見上げて」を発行しました。平成18年度は、本市のごみ収集制度について、全ての学年で学習できる内容に改訂し、教育現場で総合的な学習などの教材に積極的に活用されています。

幼児用	コスモスほしからきたベルル(環境絵本) (汎用版及び大型判、点字本と音声CDセット)		
小学生用	低学年	地球はみんなのおともだち	教師用指導書
	中学年	もつと知りたいみんなの地球	
	高学年	みんなで守ろうきれいな地球 別冊公害克服編「青い空を見上げて」	
中学生用	未来につなごうゆたかな地球		

平成21年度には、環境教育ワークブック「みどりのノート」(小学校低学年・中学年・高学年用の3種類と教師用指導書)の製作に取り組み、平成22年春に市内小学校全児童に配布し、それ以降も毎年配布しています。

北九州市の事例を用いて低炭素社会のよさに気づき、身近なところからエコライフに取り組み、環境活動に関する教材や情報の提供、交流と学習を兼ねた宿泊交流会や、1年間の活動をふり返って、壁新聞にまとめる「壁新聞教室」を実施しました。

平成23年度は、36クラブ、2,188名の幼児から高校生までが活動し、市内の多くの子どもたちの自主的な環境



5. 環境修学旅行の取組

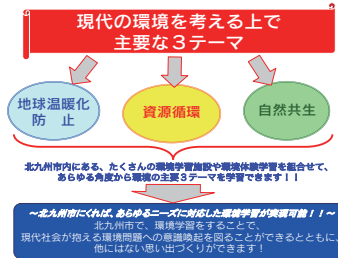
(1) 環境修学旅行とは？

北九州市は、本市の観光振興を一層推進していくため、国内外から高い評価を得ている本市の「環境」を、新たな観光素材とし、本市に集積している環境の施設や技術などと、観光の観点を、有効に組み合わせ「環境修学旅行」という本市ならではの修学旅行を平成 22 年度より開始しました。

平成 23 年度は、九州・関西・関東エリアから小学校・中学校・高等学校・大学の、合計 13 校 1,037 人が同修学旅行で本市を訪れました。

(2) 環境修学旅行の特徴

環境修学旅行の特徴は、現在の環境問題解決の主要 3 テーマである「地球温暖化防止」「資源循環」「自然共生」を切り口に、環境関連施設や企業の見学に加え、ユニークな体験学習やエコ弁当、エコ土産などを盛り込み、楽しみながら環境を学べる修学旅行です。

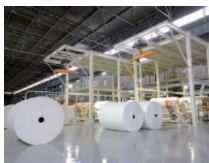


(3) 環境に配慮した企業の見学

北九州市には環境に配慮した製品づくりを行う様々な企業があります。工場見学などを通して企業の環境への取組みを学ぶことができます。



TOTO



九州製紙



シャボン玉石けん

(4) 環境修学旅行のユニークな体験学習

環境修学旅行の特徴のひとつである体験学習は、本市でユニークな環境への取組みを行っている企業や大学、研究者の方々の協力を得ながら行っています。

■産業廃棄物処分場跡地での植樹

北九州市は、平成 20 年から 34 年までの 15 年間で市内に新たに 100 万本の緑を増やそうとする「環境首都 100 万本植樹プロジェクト」を行っています。

同プロジェクトの一環として、若松区の響灘海岸の廃棄物処分場跡地において、市内企業によりどんぐりなどを植樹する緑化活動が行われています。



この植樹には、カンガルーの糞と、トマトの茎や葉を混ぜ合わせて作られた肥料が使われるという全国的にも大変ユニークな取組みが行われています。

修学旅行生は、植樹をすることにより、市のプロジェクトに参加ができるとともに地球温暖化防止や資源循環の大切さを学ぶことができます。

■生ごみコンポストづくり

北九州市は、環境国際協力にも力を入れています。

その中のひとつで、ごみ問題に悩まされている東南アジア諸国において、生ごみを堆肥に生まれ変わらせるコンポストづくりを伝授している研究者がいます。

この研究者の方が直接、生ごみコンポストづくりをレクチャーし、ごみの減量化や資源化について学びます。



(5) 今後の取組み

ひとりでも多くの方に環境修学旅行を経験してもらうことで、本市の環境への取組みが広く情報発信され、次世代を担う子どもたちの環境意識の醸成が図られることが期待できます。

北九州市に環境修学旅行で訪れた方々が、楽しみながら環境を学んでいただけるよう、今後一層の内容の充実や

受入体制の強化を行っていきたいと考えています。

6. 九州環境技術創造道場

(1) 概要

本市では、「世界の環境首都」づくりの一環として、優れた環境人財の創出を目的とする「九州環境技術創造道場」を実施しています。

本道場で育成する人財は、環境、特に廃棄物分野での幅広かつ実務的な専門知識を有する気概のある技術者です。受講後は主として九州地域ひいてはアジアの廃棄物問題の総合的な技術者、環境ビジネスのリーダーとしての活躍を期待しています。

講師陣には、本市エコタウンの有する人的ネットワークを活かして、国内でも有数の大学・民間企業等の技術者を招き、主に最終処分場について国内外の最先端の情報を取り入れた講義を実施しています。

また、講義のみの知識偏重教育ではなく、講師・受講生の双方向での討議・交流を実現するため、講師陣と寝食をともにする合宿形式を採用しています。

(2) これまでの取組

九州環境技術創造道場は、平成 16 年度から毎年開催され、平成 23 年度までに民間・行政からの受講生 184 名が修了しています。道場修了後も、受講生による新聞（九州環境技術創造道場新聞）の発行など、講師・受講生間で相互交流が継続しています。



7. 環境学習サポーター

環境学習サポーターは、環境ミュージアムを拠点として、館内外の市内全域で、市民の環境意識を高め、環境学習・環境活動の活性化を図るために、これらをサポートする市民ボランティアです。環境に関する知識や環境学習の指導者としての技術習得のための研修を毎月実施しています。

これまで、「燃料電池実験」「エコ工作」といった環境科学実験や工作、「地球温暖化三択クイズ」「エコラベルピンゴ」といったクイズなど、様々なテーマを種々の体験型

形式で活動を行い、市民の環境問題に対する意識向上の手助けをしています。また、これらの環境教育プログラムを、小学校や市民センターなどでも「出張環境ミュージアム」ということで企画し、環境学習や活動のサポートをしています。その他にも、ごみ処理工場や浄化センターなどのガイドを行うなど北九州市全域で幅広く活躍し、市民の環境保全の意識を高め、環境学習・活動を推進しています。

平成 23 年度の環境学習サポーター数は 68 名で、活動日数は 308 日、延べ活動人数は 2,537 人でした。



8. 「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の推進

(1) 持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development) とは？

持続可能な社会を実現するための教育で、環境教育、人権教育など、幅広い教育を総合的に進めるものです。教育は、学校のみならず、家庭、社会、職場などで、また、子どもから高齢者まであらゆる世代を対象にしています。一人ひとりが、世界の人人々や将来世代、また、環境との関係の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育みます。

(2) 本市が目指す ESD

本市は、「世界の環境首都」を目指しており、それは「持続可能な社会」を構築することです。北九州市の ESD はまさに、環境首都づくりのための教育であり、その推進のために、平成 18 年 9 月、市民・NPO、学校、企業、行政等から構成された「北九州 ESD 協議会」が設立されました。

北九州 ESD 協議会を中心に、多様な教育を結び、その中に「感じる」「学ぶ」「行動する」「つながる」「広がる」「共有する」の 6 つの要素を「持続可能な開発」の考え方、すなわち ESD の視点として取り入れるため、市民への啓発を進めていきます。



(3) 国連大学・地域拠点 (RCE) の認定

国連大学が全世界で進めている ESD 推進のための「地域拠点 (Regional Centre of Expertise : RCE)」づくりにおいて、平成 18 年 12 月に本市は、世界 22 地域 (平成 24 年 4 月時点 101 地域) とともに認定されました。本市の ESD 活動の促進を図るとともに、国際的な社会との情報共有や連携を推進しています。

(4) これまでの取組

当初、44 団体で発足した北九州 ESD 協議会は、現在では、環境活動や多文化共生などを実践する 72 団体 (平成 24 年 3 月現在) まで輪を広げ、各専門分野を活かした活動やパートナーシップによる取組を進めています。

また、活動の愛称を「未来パレット」とし、市民への普及を図っています。
(平成 23 年度の主な活動)

- 出前講演等を通じた市民センター等における ESD 拠点事業の展開
- 地域の社会教育を担う全市の社会教育主事・主事補への研修
- 教育委員会と連携を図り、生涯学習の取組みの一つとして展開するとともに、ユネスコスクールの登録を推進
- 子ども向け ESD 教材の普及
- 広報誌等の作成
- 大学コンソーシアム関門による ESD 入門講座の開催
- 東日本大震災復興支援に向けた取組み
- 世界会議への参加等 RCE として国内外の RCE 等との連携
- 韓国・RCE トンヨンとの交流



韓国・トンヨンとの交流



市民センター等での普及啓発

(5) 今後の取組

ESD のさらなる普及・啓発を図るため、

- 学校・地域における活動推進
- ESD 推進を担う人材の育成
- わかりやすく、実践につながる普及啓発の手法の研究
- 国内外への活動の発信強化などの取組を強化していきます。

9. 北九州市環境首都検定の実施

(1) 目的

本市では、市民環境力の強化を図るため、平成 20 年度に「北九州市環境首都検定」を創設しました。

これは、「北九州市環境基本計画」(平成 19 年 10 月策定)の戦略プロジェクト並びに「北九州市環境モデル都市行動計画」の取組の一つです。

北九州市独自の環境分野の検定を実施することによって、環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。

また、本市の環境首都への取組における認知度を高めるとともに、エコライフの取組を身近に感じることができるときつけをつくりまします。

平成 23 年度は、公式テキストを改訂し、小学生向けの「ジュニア編」と中学生以上向けの「一般編」の 2 部門で実施しました。平成 22 年度に比べ受検者が 821 人増加し、特に一般編が 966 人も増えました。70 点以上取得者には合格証を交付し、100 点取得者などに対しては表彰式で賞状を交付しました。

(2) 検定の概要 (平成 23 年度)

- [受検資格] なし
- [受検料] 無料
- [出題形式] ジュニア編: 問題数 40 問 (4 択形式)
一般編: 問題数 50 問 (4 択形式)
- [合否判定] 70 点以上合格
- [主な出題範囲]
- ジュニア編: 北九州市小学校高学年用環境教育副読本「みんなで守ろう!! きれいな地球」
- 一般編: 公式テキスト改訂版
- [学習ツール]
- 公式テキスト改訂版、過去問題



検定実施会場



平成 23 年度 表彰式

(3) 実施結果 (平成 23 年度)

[実施日時]
平成 23 年 12 月 18 日 (日) 10:00 ~ 11:30

[会場]
西日本総合展示場

[実施結果]

	ジュニア編	一般編	計
受検者数	86人	1,793人	1,879人
平均年齢	20.2歳	45.3歳	—
平均点	71.7点	79.7点	—
合格者数(70点以上)	50人	1,419人	1,469人
合格率	58.1%	79.1%	78.2%
最高点(100点)	1人	29人	30人

[特徴]

- ① 家族、学校、企業、地域団体など様々なグループで受検 (105 団体、1,042 人)
- ② 一堂に会した受検 (同じ教室での世代間交流)
- ③ 下関市や周辺地域のほか、市外からも 183 人 (10%) が受検



公式テキスト (2011改訂版)

(4) 今後の取組

平成 24 年度は、12 月 16 日 (日) に実施します。受検者の皆さんからいただいたアンケートの結果も参考にしながら、より楽しく、より役立つ北九州市らしい検定制度を確立し、環境への意識の向上、ライフスタイルの変革につなげていくことを目指します。

また、企業の CSR 活動に役立てていただくなど様々な場での活用の拡大を図っていきます。

平成 24 年度は、現在の公式テキスト改訂版を加筆し、9 月中旬に販売を開始します。